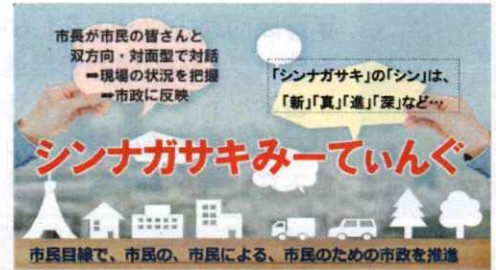


シンナガサキミーていんぐ開催レポート

i n 鳴見台小学校区



令和6年12月19日(木)、コミュニティ協議会や自治会、育友会、育成協など15人の皆さんにお集まりいただき、鳴見台小学校区の「シンナガサキミーていんぐ」を開催しました。

ミーていんぐでは、子育て世代とシニア世代の交流や今後の地域づくり、また、日頃地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。

いただいたご意見

①地域の交流の場づくりや放課後児童クラブについて

鳴見台小学校区には公共施設が少ない。豊洋台は子育て世代、光風台は高齢者が増えているので、地域が大きな家族のように集える場ができないか。また、豊洋台への学童設置について行政から働きかけはできないのか。

市の考え方
回答

長崎市では、属性や世代を問わない相談の受け止めや、社会とのつながりや制度の狭間への対応、世代や属性を超えて交流できる居場所の確保など、これらを一体的に実施するために、令和6年度より重層的支援体制整備事業を開始しました。高齢者や子育て世代等の居場所についても、それぞれの分野（高齢・障害・子育て・生活困窮）で意見交換や協議を行いながら、地域住民とともに地域づくりに向けた支援の充実をさせていきたいと考えています。

現在、人口減少の中で公共施設のあり方を決めるのは非常に難しい状況にあり、新しい施設を作ることは困難であるため、既存の施設をどのように活用するか、さらには離れた場所にある施設を活用する方法も考える必要があります。そのためには公共交通の重要性も増してくるかもしれませんが、非常に難しい課題であるため、どのように進めるかは慎重に検討しなければならないと感じています。

また、放課後児童クラブについては、「子ども・子育て支援計画」において、小学校区ごとに利用児童数を見込み、必要数のクラブを設置しており、民設民営としています。鳴見台小学校区においては、計画に基づき、1つの児童クラブを設置しており、学校敷地内の専用施設（3支援）で児童を受け入れています。（1支援の児童数は概ね40人以下（国指針））

利用希望者を受け入れることが困難な場合は、近隣の小学校区のクラブへ入所調整等を行い、待機児童が発生しないよう努めていますので、ご理解のほど、よろしくお願いします。

②障害児のショートステイ施設について

障害を持つ子どもを預けるショートステイ施設について、市内では適切な施設が見つからず、困っている。施設の整備や市外の施設を利用する場合の送迎など、市の支援体制が整えばありがたい。

市の考え方
回答

現在、長崎市において、障害のある子どもを受け入れることが可能なショートステイ施設は、13施設あります。令和6年度においては、放課後等デイサービスや児童発達支援を行っている施設が障害のある子どもに特化した短期入所を開設しました。

また、長崎市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画においては、「短期入所の利用ニーズが高く、サービス提供事業所の確保に努めること」を今後の方針として掲げております。

ご意見のとおり障害のある子どもを受け入れる施設の数は利用ニーズに対して少ない状況であると考えておりますので、今後、サービス提供体制の確保に努めてまいります。

③通学路の安全対策について

豊洋台は、人口増加により、出勤・登校時間帯は横断歩道2か所が危険な状態です。警察や住民が注意喚起を行っても、スピードを出す車や無頓着な運転が多い。道路の安全確保をしっかりとしてほしい。

市の考え方
回答

道路の安全性確保については警察の管轄となりますが、長崎市（こどもみらい課）では、こどもの登下校をはじめ、こどもが安全に安心して過ごすことができる住みよいまちを目指し、青少年育成協議会やPTA、小中学校等を構成員とし、各小学校区に組織される「子どもを守るネットワーク」の取組みを推進しています。

各ネットワークの主な活動は、地域の安全確保のための危険箇所点検を兼ねた巡回パトロールであり、危険箇所等があった場合は、長崎市（こどもみらい課）へ報告・改善要望を行い、こどもみらい課が関係各課と連携を図り、対応しています。

④高齢者支援について

月に2回開かれている高齢者サロンが開催されているが、参加しない方は家からなかなか出ない高齢者も多く、人づきあいが難しい高齢者への支援が難しいと感じているので、何か対策ができないかと思う。

市の考え方
回答

本市においては、現在、一人暮らしの高齢者等を対象とした事業として次の事業などを実施しています。より多くの方に活用していただけるよう周知を推進していきます。

今後もICTの活用などにより高齢者の方が安心して暮らせるような施策を検討していきます。

●総合支援・要介護者配食サービス事業

対象者に対して、定期的に居宅に訪問して安否確認を行うとともに、栄養のバランスのとれた食事を提供

●緊急時訪問介護事業

対象者に対して、急病や災害等の緊急時に迅速かつ適切な対応が図られるよう、緊急装置を設置し、必要に応じ、訪問介護員の派遣。また、必要と認められる者に対し、孤独感を和らげることを目的に、定期的に電話による声の訪問を実施。

●ふれあい訪問収集事業

斜面地・路地奥やエレベーターが設置されていない中高層住宅等にお住まいでゴミ出しが困難な高齢者に対し、ゴミの戸別収集と安否確認の声かけを実施

●徘徊高齢者等家族支援事業

認知症の要介護被保険者等が徘徊した場合に、当該要介護被保険者を介護する家族にその位置情報を提供し早期発見につなげる。また、認知症の要介護被保険者等が徘徊に起因する事故等を発生させ、その家族が損害賠償責任を負うことになった場合に補償される保険の保険料を負担。

●徘徊高齢者等SOSネットワーク事業

認知症等により徘徊のおそれのある高齢者等が行方不明になった場合に、地域の支援を得て早期に発見できるよう関係機関の支援体制を構築し、徘徊高齢者等の安全の確保とそのご家族等への支援を行うもの。

鈴木市長のひと言

こどもが増えている地域ならではの話を伺うことができ、大変参考になりました。また、コミュニティ協議会設立されて2年目となり、活動が順調に進んでいるように感じました。コミュニティ協議会の役割をもっと強化し、発展させることで、最終的に地域全体で子育てをしていく、そういうプラットフォームになっていくことに期待しています。



参加者からの感想

自分が知らない地域の悩みを知ることができ、それを長崎市へ伝えることができたので良かった。

同じ小学校区でも、問題などが様々あり、すぐに解決するのは難しいかもしれないが、住みやすい街、長崎になるといいなと思った。

市長との直接の会話、回答がありとても有意義だった。

鳴見台小学校区の状況を聞いてもらえてよかった。良い地域にできるように協力してもらえそうと思った。

